

週報

国際ロータリーテーマ

ロータリー：
変化をもたらすロータリー：
変化をもたらす

Vol.51 第2480回例会

2018.2.1

今年度会長テーマ

行動すれば何でも出来る! 希望を持って取り組もう!

■司会：清水会員

■点鐘・会長挨拶・会務報告 石山会長

陳さんがこの会場に来て頂けるのは一回か二回となります。是非、例会を楽しんでいってください。今日は、天赦日(てんしゃにち)です。天が全ての罪を赦すという最上の吉日で「万(よろづよし)」と記注されています。



「万よし」とは、「何に関してもよし」という意味があり、婚礼、引っ越し、開業、出生届、財布の新調などが特に良い日とされています。また、一粒万倍日(いちりゅうまんばいび)は、一粒の籾(もみ)が稲穂のように万倍にも増えると言われる吉日で、同じように何かをするには良い日です。それと大安が重なる日は、9月13日です。青梅に梅の木を植樹する話が、多摩分區でありました。2580地区で行われる事となりました。一クラブ10万円の寄付でガバナー事務局が集金して一括で寄付をする事となりました。

■国歌：君が代

■合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」◆ソングリーダー：
村田会員■お客様紹介：
野村パスト会長

本日は、米山奨学生の陳均欣さんにお越し頂いています。後ほど、奨学金の贈呈式を行います。



■幹事報告

岩原幹事

■ガバナー事務所→2018-19年度山本地区副幹事、石山地区委員
2018-19年度地区チーム研修セミナーの案内について
3月5日(月) 13時～
東武ホテルバント東京



■国際ロータリー日本事務局
→週報担当委員会へ
2月のロータリーレート 1ドル=110円

■ロータリー財団委員会→當麻地区委員長へ
3/7地区ロータリー財団委員会中止について
同日新旧合同地区ロータリー財団委員会が告知されていた為

■多摩武蔵納税貯蓄組合連合会→会長(既に振り込み済みです)
中学生の「税についての作文」募集活動分担金について協賛金として20,000円を協力する。(理事会にて承認済み)

■東京江北ロータリークラブ→2015-16年度会長、幹事、地区委員
「Jayと桜を見る会」開催の案内について
3月27日(火) 18時～ 上野精養軒

■日体桜華高等学校→会長
平成29年度卒業証書授与式の案内の受理について
3月3日(土) 午前10時～ 本校第一体育館

■宮古島ロータリークラブ→週報担当委員会へ
例会日変更について 2月6日(火)より毎週火曜日
12時10分から13時10分とする

■回覧：地区大会速報-8
コーティネーターニュース

■出席報告

相羽会員

■会員数：29名 ■欠席：2名 ■本日の出席者：25名
■出席率：92.59% ■前々回出席率(修正後)：88.89%

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30

■例会場／八坂神社 社務所

〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／中條 基成

■事務所／〒189-0013

東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL 042-393-7500 FAX 042-395-1166

ニコニコBOX

北久保会員



■会員誕生祝い月：
野澤会員、町田会員
中條会員



■令夫人誕生祝い月：
山本会員

◆石山会長・岩原幹事：陳さん、ようこそ。バギオ委員長卓話よろしく。

◆野澤(秀)会員：本日元気で満76歳の誕生日を迎えることが出来ました。

●合計：22,000円 ●累計：845,000円

米山奨学金の贈呈

■米山奨学生：陳均欣さん

卒論の提出が明日です。先週の例会で、皆さん風邪をひかないでと言いましたが、私が風邪をひいてしまいました。3月24日が卒業式です。



委員長報告

■戸澤職業奉仕委員長

最終的な打ち合わせを東村山浄水場にて行いました。東京都の水を管理する場所だけありセキュリティが厳しいです。事前登録で車も、10台15台と止められます。出席の回覧をします。



■ロータリーの友の紹介： 金子会員

今泉記念ビルマ奨学会会長の記事で「生きているのが申し訳ない、帰国後ゼロからのスタート」インパル作戦の準備を経験した体験談です。「ものは考えよう、たまたま生かされて今日がある」では、日本に在留するミャンマー学生を育成する為、奨学会を設立されました。早朝例会でラジオ体操創立15年の元気なクラブ。早朝に例会をすれば仕事に支障がないから始めたそうです。友愛の広場63ページでは、「ロータリー哲学は、その原理原則を理解しなければ、例会出席や親睦だけではロータリーの功德を享受することはできないと思います。



その上で、他者への思いやりの心を大切にロータリーを学んで欲しい」。

卓話

■野村地区バギオ基金委員長

バギオ基金支援について

バギオはフィリピンの首都マニラから北へ約250キロ標高1500メートル避暑地で商業の中心地でマニラへの野菜の供給地です。明治以降第2次世界大戦の勃発までにフィリピンに渡航した日本



人は53,000人と伝えられています。1903年から04年に渡航した5,000人余の大半は、ルソン島北部山岳地帯の夏の首都バギオに通じるベンゲット道路の工事に従事するため、多くの犠牲者を出し難工事の道路完成は日本人の評価を大きく高めました。フィリピンは、第2次世界大戦で日米最大の激戦地となり双方で110万人を超える犠牲者を出し、60万人の日本軍人のうち生還者はわずかに10万人、遺骨は13万体系しか帰国していません。日系比国人の多くは日本軍に徴用され戦死しました。戦後は、日系人と分かれば迫害を受け、生き残った母子は山谷深く身を隠すことを余儀なくされました。そんな、捨てられた民に救済の手を伸ばしたのがカトリック修道院シスターテレジア海野でした。彼女は、60歳の還暦を機にフィリピンの貧しい人々の為、余生を捧げるべくマニラの宣教師フランシスコ修道会に赴任しました。たまたま休暇にバギオに行く途中、ベンゲット道路開拓には日本人労働者が活躍したことやその後の彼らの境遇を聞き、彼らの子孫は今どこでどうしているのだろうかと心を痛めました。「もう日系人だと隠さなくても大丈夫。これからは皆で助け合っていきましょう」と言うシスター海野の言葉に、海苔巻きを食べながら27年ぶりに日本語を話し人々は、声をあげて泣いたといえます。「何か私にできる事はないの?」と言うシスターの言葉に彼らの言葉は、いつも子供の教育のことばかりでした。ほとんど、定職を持たずに食べていく事もままならない彼らにとって、学校の授業料は、大変な負担でした。この恵まない日系人の子供達に奨学金を提供し、この国のために有意な人材を育てるお手伝いの協力をお願いできませんかと相談がありました。現在は、日系人4,000人が集まり、バギオ基金の受入母体となった「北部ルソン比日友好協会」は1987年「財団法人北ルソン比日基金」として認可されました。1989年には、「比日協会」に参画しそのバギオ支部となり、育英事業に農業組合事業に多岐に亘って活動を続けております。また、会長カルロス寺岡氏は日本のバギオ名誉総領事に任命されました。ロータリーも第2世紀に入り、やるべき奉仕活動と、やらなくても良いものを分ける時期に来ているのではないのでしょうか。一般財団法人比国育英会バギオ基金こそ、まさにロータリーのやるべき世界社会奉仕委員会の仕事だと思います。



■閉会点鐘：石山会長